

刊夕 日八月四



實戰余す所後二日

各派、今明日にかけて

平、内郷に主力を傾注

投票日は明後日に迫つた、候補者にとって實戰の日はけふあすの二日を餘すのみである優勢、當選確実と云はれながらも一票でも多く獲りたいのが人情であれば反対に形勢不利、當選見込みなしと自ら觀念しつゝもなほ一票を欲するもまた人情である、然も戦ひは最後の五分間が肝要だ、殊に選舉戦の妙機はこゝにある

で各候補とも今やゴールを目指して眞に血みどろの突撃戦に移つた。双相二郡から立候補の三氏も二十五日まで石城郡内八日から二十九日にかけての轉戦を終つて各々本據に引揚げ石城郡から立候補の鈴木、比佐、星の三氏も廿八日、内郷小名瀬、四倉好間等最も多くの有権者を

平町で六ヶ所開催

あす掉尾の演説會

星派では二十九日好間、平、小名瀬、綾、草野の五ヶ所で開催するがこのうち平町は午後六時か

世界館で開催、辯士は世

界探検家菅野力大、法事博

士佐、中大教授花井忠

の各氏の豫定

比佐派では近畿三ヶ所、夜二ヶ所で

平町は午後七時から樂藝館で聞く、高木武士、萩原義

雄氏のほか法事博士松波仁

一郎氏が出演する



五郎、坂本忠治の諸氏

で實に十ヶ所で最後の言論戦

を展開、好間、永戸、渡戸、

勿來、内郷、植田の各地に轉

戦した上、平町では左の四ヶ

所で開催される

鈴木派では二十九日一日だけ

